

ポリテクカレッジ島根

中国職業能力開発大学校附属島根職業能力開発短期大学校 藤岡 健臣

1. はじめに

ポリテクカレッジ島根は、産業界における技術革新の著しい発展に伴う高度技術者のニーズ拡大に対応すべく、高度な知識と技能・技術を兼ね備えた実践技術者（テクニシャン・エンジニア）を養成するため、平成4年に開校し今年度で18年目を迎えます。

島根県は東西に長い県で、松江市・出雲市・安木市を中心とする県東部地区と大田市・江津市・浜田市・益田市を中心とする県西部地区に二分されており、当校は、県西部地区の江津市にあります。

県西部地区は石見地域と呼ばれ、赤瓦の石州瓦に代表される窯業、石見神楽・石見焼などの伝統文化・伝統工芸、世界遺産に登録された石見银山、バブルリングで有名な白イルカのいる水族館「アクアス」、そして、澄んだ空・青い海・緑の山という環境に恵まれた地域です。



カレッジから望む夕焼け

2. ポリテクカレッジ島根の訓練概要

ポリテクカレッジ島根は、高卒2年課程である専門課程を3科設置するとともに、離職者訓練6ヵ月コース3科、在職者訓練と各種の職業訓練を行って



青い海



います。また、職業能力の開発・向上に関する技術的な相談援助、情報・資料提供、講師派遣や施設・設備の開放なども行う、地域社会に開かれた職業能力開発施設です。

当校の専門課程には、平成21年4月入校から制御

技術科・情報技術科の募集を停止し、生産技術科・電子情報技術科を設置して、住居環境科を併せた3科となっています。

また、離職者訓練は、生産電気制御技術科・生産システム技術科（機械コース）・住宅リフォーム技術科をそれぞれ4月・7月・10月開講の6ヵ月コースとして設置しています。

その他、在職者に対する支援として、一昨年度末から緊急雇用対策の教育訓練コース実施場所として、年間3,500人の在職者にご利用いただき、現在も継続されています。また、江津市内に設置されている石央地域地場産業振興センターと連携して、地域企業の在職者のための特別コース「ふるさと石見次世代ものづくりセミナー」を実施し、地域の産業人材育成に貢献しています。

一昨年はポリテックビジョン、昨年は、翔江祭という学園祭と同日に、「ものづくり祭り」というイベントを開催し、地域の方々にもものづくり機運の醸成を行っています。

2.1 専門課程の紹介

(1) 生産技術科

「ものづくり」は、日本の工業社会を支え、豊かな生活を実現させています。わが国の製造業は、「ものづくり」の能力で世界に確固たる地位を築いてきました。これは、優秀なものづくり技能者・技術者によって、厳しい世界の競争のなかでオンリーワンの高付加価値な製品、工業材料、そして技術サービスを作り、世界の人々に認められたからです。

高精度な機械にコンピュータ等を有効に利用した複合的な装置が一般的になった現在、機械加工、設計分野の技能・技術はもとより、より精密な加工や高度な生産ができる実践的な技術を習得した人材が必要とされています。

そうしたなか、当校の生産技術科では、機械技術者に必要な技能・技術のほか、より高度な生産技術にも対応できる知識を習得した実践技術者の養成を目標としています。



本館ロビー



学園祭の一コマ



ポリテックビジョンin島根

「機械基礎」「機械加工」「精密加工」「制御技術」「設計・製図」を5本の柱とし、そのまとめとして「応用技術」で総合的な理解を確認し、機械分野に関する最適な生産技術を構築するための専門能力を習得します。例えば、設計・製図と精密加工では、プラスチック射出成形用金型を課題として、コンピュータを用いた金型設計（CAD）とコンピュータを利用した金型製作（CAM）を行い、これまでに習得した機械製図、CAD/CAMや数値制御工作機械等の知識・技術を総括していきます。

さらに、技能検定などの資格取得にも積極的に支援しており、技術進歩に対応できる技能・技術による「ものづくり」を通して「人づくり」を推進しています。



技能検定受験中



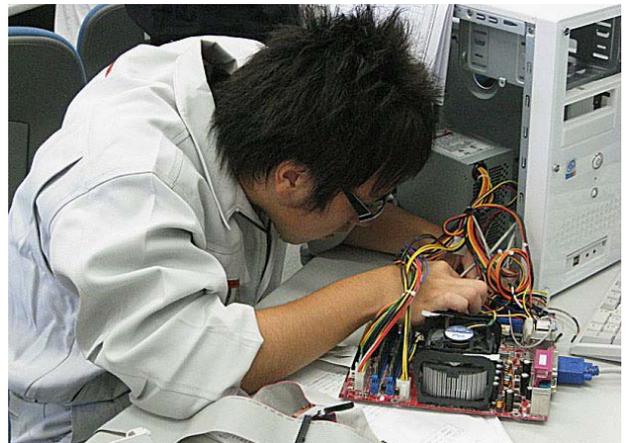
総合製作実習の作品

(2) 電子情報技術科

近年、電子技術、情報技術、通信技術の分野は携帯電話やパソコン等の情報家電はもちろん、家電製品や自動車などさまざまな分野で使われており、生活を便利に快適にしています。故に、情報ネットワークやIT社会を形成するコンピュータ技術、移動体通信に代表される通信ネットワーク技術、家電製品やカーナビゲーションシステムに代表されるエレクトロニクス技術を担っていくことができる人材の教育が急務となっています。

そこで、当校の電子情報技術科においては、こうした技術革新の流れを受けて、マイコン技術や電子回路設計などの科目ではコンピュータを構成する電子機器などの「ハードウェア」の基礎を学ぶほか、OSやプログラムなどの科目ではコンピュータを制御する「ソフトウェア」の基礎を学んでいきます。また、ネットワーク技術や移動体通信技術の科目では、遠隔地から管理、運用を行う「ネットワーク」の基礎を習得し、電子技術、情報技術、通信技術の各分野を融合した教育を行っています。

修了後は、情報家電などの開発・設計、ネットワーク設計・構築、メンテナンスなどのフィールドエンジニアとして幅広い分野での活躍が期待されています。



実習風景

(3) 住居環境科

近年、社会を取り巻く環境は大きく変化しており、建築・建設業界においてもおのこの分野より新しい技術・技能が導入されたことで、より複雑化・多様化してきています。このような大きな変化のなかで建築物の計画・施工に携わる建築系技術者には大きな期待が寄せられており、単に建物の計画・施工をするだけでなく、人に安らぎを与えるような豊かな空間と美しい外観を創造することができる感性を併せ持つ建築系技能者が求められています。

住居環境科では、このようなニーズに応えるために計画・施工およびインテリア等の専門的な知識と技術を習得することにより、これらの分野で活躍できる実践技術者の養成を教育訓練目標としています。

また、高度情報化時代を踏まえ、コンピュータ（建築CAD・CG・プレゼンテーション等）を利用した能力開発訓練を行うことにより、これらの分野の支援ができるようにします。

さらに、各期の集中実習や本科まとめの集大成としての総合製作実習を行うことにより、理論的知識と実践技術の融合された総合的能力を習得した建築系技術者を育成します。



地元中学生ものづくり体験教室

3. 学生の動向等

当校専門課程への入学者を地域別に見てみると、年度によりバラつきはあるものの、近年は8割近くが島根県内からの入学者となっています。

また、平成4年の開校以来現在までに1,298名が当校を卒業しました。平成21年度卒業生においては、卒業時点での進路状況は就職が76.7%、中国職業能力開発大学校を中心とした応用課程への進学が16.7%となっています。

就職についても6割以上が、県内企業に就職しており、これは地域に密着した短大校としての役割が定着してきたものととらえています。

4. トピックス

当校のある江津市では、およそ100年前、日露戦争日本海海戦において沈没したロシアバルチック艦隊特務艦「イルティッシュ号」の乗組員を地元住民が人類愛をもって救助したという歴史があります。以後、この先人たちの温かい人類愛を後世にも伝えるため「ロシア祭り」が行われています。

また、隣の浜田市の商業港では、近年ロシアからの貨物船が目立ちます。日本からは中古車等を、ロシアからは木材等の貿易が行われているようです。

そうしたロシアとの関係が深い土地柄ということ



優雅な実習帆船



ロシアからの来客



当校学生と交流

もあり、当校においても平成20年度から毎年、ロシアの商船大学（ウラジオストック所在）の実習帆船が寄港した際に当校学生との交流を行っています。

5. おわりに

島根県では、現在4校（松江、出雲、浜田、益田）の県立高等技術校が平成23年4月から出雲の東部校と益田の西部校に再編され、県と連携した職業能力開発・地域企業支援・産学官連携の拠点として当校の存在が重要視されています。

当校も、今までにも増して、地域に根ざした職業能力開発施設として、実践技術者の養成を行うとともに、地域産業振興・地域企業支援に取り組んでいきたいと考えています。